

## 令和7年度 第3回大津市環境人育成推進懇話会 議事録

1	日時	令和8年3月3日(火) 18:30~20:00	
2	場所	大津市役所 新館7階 特別会議室	
3	出席者	5名 びわこ成蹊スポーツ大学 カワセミ自然の会 びわこ成蹊スポーツ大学 滋賀県小学校教育研究会 環境教育部会 幼稚園環境部会	※敬称略 中野 友博 橋詰 幸喜 中川 宏治 石戸 勇雄 山本 美徳
4	欠席者	4名 オーパルオプテックス株式会社 NPO法人おおつ環境フォーラム 滋賀県シェアリングネイチャー協会 大津こども環境探偵団エコリーダー	※敬称略 山脇 秀錬 長崎 雄二 辻田 良雄 三谷 大樹

### 1 開会

### 2 環境政策課長挨拶

### 3 座長挨拶

### 4 議題

#### (1) 環境学習関連事業の報告等

・資料1について事務局より説明。

【構成員からの御意見・御質問】

#### ●大津こども環境探偵団について

・しじみは1年間採れるのか。

→正確な時期はわからないが、11月は採れたての大きいものを振る舞っていただいた。

・2月の洗堰探偵について、“環境”探偵団ではあるが洗堰の役割は防災にも繋がるため、その要素も活動に取り入れると色々な分野と繋がると思う。

## ●指導者研修（実践編）について

・指導者研修会について、先日、ある園の園長先生から虫など生き物が苦手な先生が多く、動植物と触れる研修など保育士に対して教育の機会はないかと相談を受けた。結果を見ると8名しか見学に参加されていないので、保育園等のニーズにこたえきれていない部分があるかもしれないと感じた。保育士の先生も多忙であるため、より多くの方に参加していただくには開催時期などかなり工夫をしないとニーズに対応することは難しいと思う。

→参加された方や見学された方のアンケート結果を見て、どのようなニーズがあるか把握し、反映したいと思う。

・先生方に指導者研修会へ来ていただくため、これまで様々な日程でやってきた結果が今の平日で半日開催になっている。お昼を挟むと来てもらいにくくなるので、保育士の方に来ていただくにはまた色々なパターンでの開催を考慮してもらわないといけないと思う。

・民間の方に関しては意見も入れながらやっていく必要もあるかと思う。公立、民間の両方の先生方に来て欲しいと思う。

・環境部会でも幼稚園教諭と保育士の方に来ていただくために研修しているが、特に保育士は門戸を広げても来にくいというのが現状である。

・市に関しては公立のあり方が変化していくので参加してもらえる機会は増えていくと個人的に期待はしているが、門戸を広げて案内してもあまり来てもらえないことが課題かと思う。

・夏の指導者研修会には小学校からも参加があった。小学校教諭が1月の平日午前にある指導者研修会（実践編）に来るのは難しいと思う。

・感想に小学校、中学校の教員を目指す大学生にも参加してほしいとあった。虫が苦手な先生は多いので大学生も入れていくのも1つと考えられる。

## （2）大津市環境基本計画（第3次）～環境人の育成について～の中間見直し

・資料2について事務局より説明

【構成員からの御意見・御質問】

## ●学校教育との連携について

・「やまのこ」事業自体は県の事業であるが、主体は施設でもあり、本来は学校が主体の事業である。既に教育課程の総合的な学習の時間に組み込まれており、学校の主体性はあると言えると思うので「やまのこ」事業は含めていただきたい。

- ・大津市環境基本計画（※以下、計画）は環境政策課が取り扱っているが、計画では大津市全体の環境について見ていくのか。そうであるならば、他の部局が行っている環境に関わることも担当課と相談と調整しながら入れないといけないのではないのか。

→そうである。現在の計画も他部署の事業は入っている。

- ・今回、「やまのこ」に関して計画に入れていくのであれば、中学1年生に関してもふるさと体験学習で葛川少年自然の家へ行っているのであわせて教育委員会と話していただきたい。計画に学校教育を入れてもらうことで教育と環境人が繋がっていくと思う。

- ・中学生のふるさと体験学習は市の予算であると思う。教育委員会とうまく連携できるか分からないが、以前から連携についての話は葛川少年自然の家でも挙がっていた。

- ・「うみのこ」は学習船であるので大津市の取組でない扱いでよいと思うが、「たんぼのこ」は大津市内の水田を使わせていただいて各学校で場所を探してやっていると思う。「たんぼのこ」は入れない理由を教えてください。

→「たんぼのこ」は学校と地元が直接やり取りしており、担当者があまり把握されていないと感じた。そのような点から市の事業として計画に入れるか迷うところではあるが、引き続き学校などに聞き取りを行いたい。

- ・「たんぼのこ」はどこに報告を出しているか。

- ・県の農業担当課であったと思う。市ではないため、学校教育課も把握しきれてない可能性はある。

- ・「たんぼのこ」も「うみのこ」、「やまのこ」と同様、本来は主体は学校であり、事前及び事後の学習も教育課程の中に位置づいている。そのため、「たんぼのこ」も、それぞれの地域を生かした「学校主体の体験学習」として捉えないと不自然である。

→県からは補助金という形で出ており、実際の活動に必要な経費は市から出ているのか。

- ・学校が直接やりとりするのは市である。また、補助金はあるが実施主体は市であると思う。

- ・大津市民のための計画であるから、予算は県でも実施主体は小学校であるので入っていないと違和感がある。

- ・書き方の問題であると思う。計画は市全体で考えるものであるから、環境政策課が計画を取り扱っているとしても様々な部署と調整をしながら文言を計画に入れるべきである。ただ、市が予算を出しているかはどれだけ力を入れているかに繋がるので、すごく大切な要素ではあると思う。

- ・教育委員会が作成する計画の中でどう考えるかは分からないが、予算元は違っても大津市全体のことであるため、教育委員会のスタンスを確認をしながら取り組むことで計画が見えてくると思う。

→所管の意向もあるため、調整して入れられそうであれば入れてくことを考える。

- ・今の話を受けて、活動指標の環境教育指導者研修の満足度について、環境教育部会が行っている研修の指標を報告するのは難しくないと思う。

- ・懇話会の前身の実行委員会で環境人の計画を考えた時は、実は学校教育の環境教育と、そうでない部分の社会教育の環境教育と分けていた。自然家族事業は社会教育の環境教育と考えており、自然家族事業に小さな子ども達がいることから幼稚園を巻き込もうとなった。学校教育に関しては教育委員会が環境教育しているから、そちらは教育委員会に任せようと線引きをした。ただ、全体を考えた時に一緒に入った計画の方がやはり良いと思う。

- ・自然や虫が苦手な先生方が増えていることが一番の課題と個人的に感じており、苦手でも昆虫観察ができるキットもあるので研修に参加してもらえようようなアプローチを環境政策課からもしてもらえるとありがたい。

→今回はいろいろ声掛けて保育士の方に来ていただいた。引き続き、声を掛けさせてもらう。

## ●大津市の里山活動について

- ・雑木林の管理が不足していると感じることに対して支援に関する対応として、出前講座についてどのように調査されるのか。

→農林水産課に何か事業はないか聞いたが、主体になってやってる事業はなく、民間団体の環境森林学習に対して後援はしているとのことであった。

- ・県の事業で緑化推進委員会の緑の募金という活動があり、学区割活動を公園緑地課が関わっているが、主には県がしているようなのでそこに聞いてみると良いと思う。

- ・市の事業としてはないかもしれないが、大津市内の里山活動をしている民間・ボランティア団体はまとめてあるのか。

→公園緑地課でどこまで把握されてるかはわからない。

- ・大津市の民間・ボランティア団体がいくつあって、その中で里山活動をしている団体がいくつあるのか見ていかないと市の里山活動は把握できない。計画の中にも入っていることであるので、どこも把握されていないのであればリスト化するなどして欲しい。市の事業がないのであれば、その団体の数が増えたり、活性化するように計画に入れていくのが良いと思う。

## 5 その他

### 事務局より来年度の体制について説明

→本日いただいた意見も含めてもう一度整理をしながら、計画の見直し案自体の作成を進めていく。以上をもって、令和7年度第3回大津市環境人育成推進懇話会を終了する。